

## 第 114 回実践勉強会 実施レポート

日時：令和 2 年 1 月 14 日(火) 19 時 45 分 ～

場所：大森赤十字病院 1 階講堂

共催：杏林製薬株式会社

参加者：100 名

テーマ：「外来診療における抗菌薬の使い方について ～呼吸器感染症を中心に～」

演者：東京労災病院 呼吸器内科 副院長 戸島 洋一 先生

質疑①：

Q. 必要がなければ抗菌薬の使用は控えるというお話でしたが、高齢者に対する抗菌薬の使用も、一般成人と同じような使い方になるのでしょうか。在宅などで免疫や食欲が落ちている患者さんと接する機会があるので教えてください。

A. 高齢者は症状が乏しいため、どこに感染症のフォーカスがあるのか、患者さんにとって何が一番重要なのかを見極める必要があると思います。したがって、例えば、咳や熱が長引く場合にはレントゲン、その他症状によっては血液検査や尿検査をおこなっていく必要があると思います。

質疑②：

Q. マクロライド系抗菌薬の中ではアジスロマイシンが良いというお話でしたが、その理由を教えてください。

A. クラリスロマイシンが妊婦に対して使いづらいという点と、また投与量の観点で、例えばマイコプラズマなどにクラリスロマイシンの 1 日 400 mg ですと少ないという印象です、アジスロマイシンは 1 日 500 mg です so どちらを選択しています。

質疑③：

Q. 漢方薬についてはいかがでしょうか。

A. 発病初期の段階では有効だと思います。

私もインフルエンザ時に麻黄湯、風邪の初期症状に葛根湯などは他の薬剤と併用で処方することがあります。